

## 女子大生の問題行動への許容傾向と親からの自律性援助との関係

B 班

### 問題

近年青少年による問題行動がニュースで大きく報じられている。

中村ら(2007)は、「非行悪化の背景には、青少年を取り巻く社会環境の変化など、様々な要素があると思われるが、親子関係の希薄化もその一つであり、かつ多大な影響を及ぼしているものとする」と述べている。

中村ら(2007)によると、犯罪許容性と親子関係において、概して、親に対する心理的距離が近い群において非行・虞犯・犯罪に対する許容性が低くなっており、親子関係の親密さが子どもの非行的態度を抑止することを示した。ただし、非行・虞犯・犯罪に対する許容性自体は、そもそも日本の中高生は非行や虞犯を容認する傾向が強く、その傾向は親との心理的距離の広がりにもなっており、さらに助長されていると考えられる。親子の心理的距離の近さが、社会生活を重視し、内的統制思考が強く、精神主義的な傾向が強くなるなど子どもの健全な意識や態度を育むとともに、非行や犯罪への抑止要因として有効に機能している可能性を確認することができたといえるとしている。

また、森下(2002)は、幼児は、母親行動をモデリングしながら社会的行動を発達させていることを報告している。中台・金山・前田(2004)は、幼児期に適切な社会的行動を行えるか否かは、その時期の子どもの適応にとって大きな問題となるだけでなく、後の社会的適応状態を左右する要因となる。社会的行動は学習を通して獲得されるものであり、その学習場面はさまざまに考えられる。なかでも、家庭は幼児が社会的行動を学習するのに重要な場面である。幼児期は家庭がまだ生活の大部分を占めており、母親から養育を受ける中で、親の行動をモデリングしたり、幼児の行動に対する親からのフィードバックを通したりして社会的行動を学習していくという側面が強いと考えられる。つまり、幼児の社会的行動の学習には、後に向社会的行動を行うにあたって親の養育態度が大きな影響を及ぼすと考えられることを述べている。

また、中台ら(2004)は、母親の養育態度と幼児の問題行動に関する研究で、受容が低い母親は子どもをほめるよりも叱ったり注意したりすることが多く、子どもがぐずぐずしたりまごまごしていると早くするように注意したりすることが多い傾向にあると述べ、母親からこのような行動を受けた子どもは母親の態度をモデリングし、回避しようと問題行動を表出させることを明らかとした。

親子の信頼関係について酒井・菅原・眞榮城・菅原・北村(2002)は、親との間に信頼関係を形成できていることが、子どもの精神的健康や問題行動などに大きく関わることはこれまで多くの研究によって認められてきたことを述べている。Bowlby(1969/1976, 酒井ら(2002)の引用による)の愛着理論では、Ainworth, Blehar, Waters & Wall(1978, 酒

井ら（2002）の引用による）による乳幼児期の養育者との関係が適切で応答性の良いものであるほど、その時点やその後における子どもの精神的な安定性が高いことが示された。また、子どもの問題行動に対する家庭環境要因の影響を扱った研究について Loeber & Loeber（1986, 酒井ら（2002）の引用による）によると、反社会的な問題行動の発達に最も強い関連を示すのは、親の子どもに対するスーパービジョンの不足や親子の関わりの希薄さ、親の子どもに対する愛着感の欠如などであることが指摘されている。

これらの研究より、親の養育態度やそれに対する子どもの認識が子どもの行動や考えに影響を与えると考えられる。さらに、Grolnick<sup>グロールニック</sup>, Ryan and Deci<sup>ライアン デシ</sup>（1991）によれば、親の養育態度は自律性援助との関与を取り上げており、自律性援助とは、行動をコントロールするために罰などを与えるのではなく、子ども自身が何かを選択したり、行ったりすることを励ます態度や行動のことを指し、関与とは、子どもに関心を持ち、行動や体験に関わろうとする態度であると述べている。

以上のことから、問題行動と自律性援助に注目し、中村・西迫・森上・桑原(2008)の研究によって示された、犯罪的行為を「非人道性」、他者に対する配慮に欠いた行動をとる行為を「反公共性」、自己の行いを省みずによく加減な態度をとるという行為を「非勤勉性」と分類し、それらを合わせて社会規範を逸脱する行為を構成しているとして、問題行動と位置づけた。

## 目的

親からの自律性援助への認識が子どもの問題行動に対しての認知に影響を与えているのかを明らかにする。また、問題行動への許容傾向と親からの自律性援助との関係を検討することを目的とする。

## 仮説

- ① 親の自律性援助の程度を子どもが低く認知しているほど、他者や自己への問題行動に対する許容傾向が高い
- ② 親の自律性援助の程度を子どもが高く認知しているほど、他者や自己への問題行動に対する許容傾向が低い

## 方法

**調査対象** 梶山女学園大学に所属する女子大生 117 名に実施し、有効回答数は 95 名(年齢平均=18.41, SD=1.21)であった。

**調査日時・場所** 2015 年 6 月 27 日大学学内の大教室にて 13:30-13:40 に実施した。

## 調査材料

### ①問題行動への許容傾向測定尺度

問題行動への許容傾向の高さは、自己・他者ともに社会的規範から逸脱した行為に対して寛容であることと定義し、作成した。

評定は「1-全く当てはまらない」、「2-ほとんど当てはまらない」、「3-あまり当てはまらない」、「4-少し当てはまる」、「5-大体当てはまる」、「6-よく当てはまる」の6段階で行う。全46項目にて実施。

問題行動の内訳として、「非人道性」「反公共性」「非勤勉性」の3つを想定し、自分が行う行為と他者が行う行為では許容傾向に差が生じる可能性が考えられるため、下位尺度には自己が行う問題行動への許容傾向測定尺度と、他者が行う問題行動への許容傾向測定尺度と設定した。

項目内容については以下の表1にて参照、逆転項目には★を表記。また、項目内容は同じであるが、実際の質問紙では教示に加え、自己用では文頭に「私は」、他者用では文頭に「他者なら」とつけることで他者用と自己用との差を測るものとする。

表1.問題行動への許容傾向測定尺度

項目
1) 夜にライトをつけずに自転車で乗っても、かまわないと思う
2) 車やバイクを運転する際に法定速度を超えて走っていてもかまわないと思う
3) 20歳未満でもお酒を飲んだり、タバコを吸ってもかまわないと思う
4) 許可なく友人や他人の写真をSNSに載せてもかまわないと思う
5) たとえ不当であっても気づかれなければコピー&ペーストをしてもかまわないと思う
6) タバコやゴミは近くにゴミ箱がなければポイ捨てをしても仕方がないと思う
7) 歩きスマホをしていてもかまわないと思う
8) 公共の場所であっても話し声や音楽の音量に注意を払う必要はないと思う
9) 電車やバスなどで化粧や食事をしてもかまわないと思う
10) 分別が表示されているゴミ箱に分別せず捨ててもかまわないと思う
11) バスや電車、病院などで通話していてもかまわないと思う
12) 並んでいる列に割り込んでもかまわないと思う
13) 友人や家族との食事中に携帯電話やゲームをしてもかまわないと思う
★14) 目上の人にはきちんと敬語を使うべきだと思う
15) 授業中や公演中に携帯電話を触ったり、鳴らしてしまうことは仕方がないと思う
16) 釣銭を多くもらっても言わずに帰ってかまわないと思う
17) インターネット上であるなら他人を誹謗中傷してもかまわないと思う
★18) 財布を拾ったら必ず交番に届けなければいけないと思う
19) バスや電車でお年寄りや障がいをもつ方などに必ずしも席を譲る必要はないと思う
20) 少しくらい約束やルールを破ってもかまわないと思う
21) あいさつをされても無視してかまわないと思う
22) やられたらやり返してもかまわないと思う
23) 自分がいいと思えば何をしてもかまわないと思う

### ②親からの自律性援助測定尺度

6件法、評定は「1-全く当てはまらない」、「2-ほとんど当てはまらない」、「3-あまり当てはまらない」、「4-少し当てはまる」、「5-大体当てはまる」、「6-よく当てはまる」の6段階

で行う。全 20 項目にて実施。項目内容については以下の表 2 にて参照、逆転項目には★を表記。

桜井(2003)によって作成された、大学生が認知した親からの自律性援助の程度を測定するための尺度である(吉田・宮本, 2011)。

桜井(2003)の親からの自律性援助尺度は、父親用、母親用とそれぞれ測定しているが本研究では片親家庭という可能性を考慮して母親用、父親用と分けず「親」という枠組みで調査を行う。また、吉田・宮本(2011)によれば親からの自律性援助測定尺度は大学生が高校生の時から現在まで親からどの程度自律性を援助されてきたか認知しているかを見るものであるが、今回は成育歴から親の養育態度に対してどの程度認知しているかをみていきたいと考えるため、教示を「高校生の頃から現在まで」のところを「幼少期から現在まで」と変更し使用する。

表2親からの自律性援助測定尺度

項目
1) 私の親は、人に言われるのではなく、自分で考えて行動するように私に言う。
★ 2) 私の親は、子供は父親の言うことに従うのが当然だと思っている。
3) 私の親は、私がおかした間違いについて、私と話し合う。
★ 4) 私の親は、私が何か失敗すると、私を責める。
5) 私の親は、私が自分で決断してやっていくことを好ましいと思っている。
★ 6) 私の親は、私が間違いをすると理由も聞かず怒る。
7) 私の親は、私が反抗しても、落胆したりはしない。
★ 8) 私の親は、私の意見を聞いてくれない。
9) 私の親は、私の帰宅が遅くてもすぐに怒りはしない。
★10) 私の親は、私が決めたことでも自分の意見と合わない、自分の意見を通そうとする。
★11) 私の親は、自分の価値観を私に押しつける。
12) 私の親は、私が自分の意見に従わないと、まずその理由を考える。
★13) 私の親は、罰によって私の間違いを正そうとする。
14) 私の親は、私が何か失敗しても、私を責めたりはしない。
★15) 私の親は、私に指図する。
16) 私の親は、時に間違っても必要だと考えている。
★17) 私の親は、私が反抗すると落胆する。
18) 私の親は、私の意見を聞いて考える。
★19) 私の親は、私の帰宅が遅いと理由も聞かずに怒る。
20) 私の親は、私が決めたことを尊重する。

## 結果

初めに、データ整理を行った。得られたデータに整理番号をつけ質問項目に欠損があれば、データ処理の対象外とした。有効回答数は 95 名であり、全て女性であった。

また、フロア効果がみられたが、構成としてすべて重要であると考えられたため全ての項目で主因子法・Promax 回転による因子分析を行った。

さらに、自己による問題行動への許容傾向と他者による問題行動への許容傾向に違いがみられるのではないかと考え、全体としての問題行動への許容傾向とは別に自己への認知と他者への認知を分けての分析も行った。

### (1) 問題行動への許容傾向と親からの自立性援助との関係

問題行動への許容傾向尺度、46 項目について 3 因子を想定していたため固有値を 3 と固定し主因子法・Promax 回転による因子分析を行った。その結果、固有値の分析の%の減衰傾向が 8.651、1.709、1.325、1.196、1.044…というものであり、固有値の累積の%が 3 因子で 50.805 となったため 3 因子を抽出した。しかし、「私は釣銭を多くもらっても言わずに帰ってかまわないと思う」「私はインターネット上であるなら他人を誹謗中傷してもかまわないと思う」「私は財布を拾ったら必ず交番に届けなければいけないと思う」「私は自分がいいと思えば何をしてかまわないと思う」の 4 項目は因子負荷量が 0.35 未満で十分な因子負荷量を示さなかったため以後の分析から除外した。

表3.問題行動への許容傾向についての因子パターン

因子名	質問項目	因子		
		1	2	3
自己中心性	たとえ不当であっても気づかれなければコピー&ペーストをしてもかまわないと思う	.843	-.095	.035
	20歳未満でもお酒を飲んだり、タバコを吸ってもかまわないと思う	.813	.036	-.145
	許可なく友人や他人の写真をSNSに載せてもかまわないと思う	.648	-.017	.060
	歩きスマホをしていてもかまわないと思う	.633	-.092	.159
	車やバイクを運転する際に法定速度を超えて走っていてもかまわないと思う	.555	.082	.044
	分別が表示されているゴミ箱に分別せず捨ててもかまわないと思う	.424	.195	.131
	電車やバスなどで化粧や食事をしていてもかまわないと思う	.394	.249	.015
状況配慮	並んでいる列に割り込んでかまわないと思う	-.087	.883	.002
	公共の場所であっても話し声や音楽の音量に注意を払う必要はないと思う	.116	.688	.002
	夜にライトをつけずに自転車で乗っても、かまわないと思う	.340	.569	-.207
	バスや電車、病院などで通話していてもかまわないと思う	-.074	.563	.263
	タバコやゴミは近くにゴミ箱があればポイ捨てをしても仕方がないと思う	.280	.505	-.019
	★目上の人にはきちんと敬語を使うべきだと思う	-.094	.452	.018
	私はインターネット上であるなら他人を誹謗中傷しても構わないと思う	-.019	.324	.251
私は財布を拾ったら必ず交番に届けなければいけないと思う	-.066	.244	.140	
対人考慮	あいさつをされても無視してかまわないと思う	-.227	.187	.735
	バスや電車でお年寄りや障がいをもつ方などに必ずしも席を譲る必要はないと思う	-.048	.148	.629
	少しくらい約束やルールを破ってもかまわないと思う	.316	-.134	.613
	やられたらやり返してもかまわないと思う	.300	-.282	.588
	友人や家族との食事中に携帯電話やゲームをしてもかまわないと思う	.129	.120	.475
	私は授業中や公演中に携帯電話を触ったり、鳴らしてしまうことは仕方ないと思う	0.102	0.171	.364
	私は自分がいいと思えば何をしてかまわないと思う	0.239	0.243	.326
私は釣銭を多くもらっても言わずに帰って構わないと思う	0.241	0.078	.304	
★は逆転項目		I	II	III
	I	1.000	.596	.667
	II	.596	1.000	.544
	III	.667	.544	1.000

表 3 から、第 1 因子は「たとえ不当であっても気づかれなければコピー&ペーストをしてもかまわないと思う」、「20 歳未満でもお酒を飲んだり、タバコを吸ってもかまわないと思う」、「許可なく友人や他人の写真を SNS に載せてもかまわないと思う」、「歩きスマホをしていてもかまわないと思う」、「車やバイクを運転する際に法定速度を超えて走っ

ていてもかまわないと思う」、「分別が表示されているゴミ箱に分別せず捨ててもかまわないと思う」、「電車やバスなどで化粧や食事をしていてもかまわないと思う」の7項目で構成されており、一般的にふさわしくないという行動であっても自分の利益のためであれば良いとしていることに関連がみられたため、「自己中心性」と命名した。

第2因子は「並んでいる列に割り込んでもかまわないと思う」、「公共の場所であっても話し声や音楽の音量に注意を払う必要はないと思う」、「夜にライトをつけずに自転車で乗っても、かまわないと思う」、「バスや電車、病院などで通話していてもかまわないと思う」「タバコやゴミは近くにゴミ箱がなければポイ捨てをしても仕方がないと思う」、「目上の人にはきちんと敬語を使うべきだと思う」、「私はインターネット上であるなら他人を誹謗中傷しても構わないと思う」、「私は財布を拾ったら必ず交番に届けなければいけないと思う」の6項目で構成されており、状況に応じて適切だと考えられる行動を判断・対応をしていないものとの関連がみられたため、「状況配慮」と命名した。

第3因子は「あいさつをされても無視してかまわないと思う」、「バスや電車でお年寄りや障がいをもつ方などに必ずしも席を譲る必要はないと思う」、「少しくらい約束やルールを破ってもかまわないと思う」、「やられたらやり返してもかまわないと思う」、「友人や家族との食事中に携帯電話やゲームをしてもかまわないと思う」、「私は授業中や公演中に携帯電話を触ったり、鳴らしてしまうことは仕方ないと思う」「私は自分がいいと思えば何をしてもかまわないと思う」「私は釣銭を多くもらっても言わずに帰って構わないと思う」の6項目で構成されており、他者の存在を考慮せず、なおかつ他者の気分を害する可能性があるものとの関連がみられたため、「対人考慮」と命名した。

次に問題行動への許容傾向測定尺度の3因子の平均、SD、 $\alpha$ 係数を算出した。

**表4.問題行動への許容傾向測定尺度の因子ごとの平均・SD・ $\alpha$ 係数**

	平均値	標準偏差	$\alpha$
自己中心性	2.227	.997	.854
状況配慮	1.599	.719	.854
対人考慮	2.428	.986	.804

表4では、内的整合性を検討するために $\alpha$ 係数を算出したところ、「自己中心性」、「状況配慮」とともに $\alpha=0.854$ 、「対人考慮」では $\alpha=0.804$ とすべての因子で十分な値が得られた。

## (2) 自己・他者の問題行動への許容傾向と親からの自律性援助との関係

### ① 自己

問題行動への許容傾向測定尺度(自己)、23項目について3因子を想定していたため固有値を3と固定し主因子法・Promax回転による因子分析を行った。固有値の分析の%の減衰傾向が6.189、2.009、1.746、1.598…というものであり、固有値の累積の%が3因子で43.233となったが全体と揃えるため3因子を抽出した。しかし、「私はバスや電車でお年寄りや障がいを持つ方などに必ずしも席を譲る必要はないと思う」、「私は釣り銭を多くもらっても

言わずに帰ってかまわないと思う」、「私は電車やバスなどで化粧や食事をしていてもかまわないと思う」、「私はタバコやゴミは近くにゴミ箱があればポイ捨てをしても仕方がないと思う」の4項目は因子負荷量が 0.35 未満で十分な因子負荷量を示さなかったため以後の分析から除外した。

表5:問題行動への許容性に関する因子パターン(自己)

因子名	質問項目	因子		
		I	II	III
自己中心性	私は20歳未満でもお酒を飲んだり、タバコを吸ってもかまわないと思う	0.70	-0.24	0.07
	私はたとえ不当であっても気づかれなければコピー&ペストをしてもかまわないと思う	0.63	0.17	-0.02
	私は少しくらい約束やルールを破ってもかまわないと思う	0.60	0.14	-0.22
	私は歩きスマホをしてもかまわないと思う	0.67	0.04	0.16
	私は許可なく友人や他人の写真をSNSに載せてもかまわないと思う	0.53	0.18	-0.14
	私は車やバイクを運転する際に法定速度を超えて走っていてもかまわないと思う	0.48	-0.35	0.00
	私はやられたらやり返してもかまわないと思う	0.41	0.17	-0.11
	私は自分がいいと思えば何をしてもかまわないと思う	0.36	0.22	0.07
	私は分別が表示されているゴミ箱に分別せず捨ててもかまわないと思う	0.31	0.15	0.03
	私はバスや電車でお手洗いや喫煙をしても仕方など必ずしも罪を認める必要はないと思う	0.29	0.22	0.16
私は釣り餌が多くもらっても言わずに帰ってかまわないと思う	0.26	0.12	0.04	
対人考慮	私はバスや電車、病院などで通話していてもかまわないと思う	0.43	0.52	0.01
	私は友人や家族との食事中に携帯電話やゲームをしてもかまわないと思う	0.42	0.45	0.15
	私はあいさつがなくても無視してかまわないと思う	0.38	0.43	0.04
	私はインク ネット上であるなら他人を誹謗中傷してもかまわないと思う	0.27	0.43	0.11
	私は授業中や会議中に携帯電話を触ったり、覗きしてしまっても仕方がないと思う	0.26	0.42	0.02
私は電車やバスなどで化粧や食事をしていてもかまわないと思う	0.20	0.32	0.08	
法規制感	私は夜にライトをつけずに自転車に乗ってもかまわないと思う	0.28	-0.23	0.07
	私は年々である前に利用頻度もかまわないと思う	-0.22	0.42	0.05
	私は公衆の場であっても話し声や音楽の音量に注意を払う必要はないと思う	0.18	0.31	0.00
	★私は財布を拾ったから必ず交番に届けなければならないと思う	-0.05	0.14	0.28
	★私は目上の人にはきちんと敬語を使うべきだと思う	-0.02	-0.32	0.17
私はタバコやゴミは近くにゴミ箱があればポイ捨てをしても仕方がないと思う	0.00	0.00	0.00	
★は逆転項目		I	II	III
		1.142	0.22	0.02
		0.41	1.091	0.04
		0.02	0.25	1.102

表5から、第1因子は「私は20歳未満でもお酒を飲んだり、タバコを吸ってもかまわないと思う」、「私はたとえ不当であっても気づかれなければコピー&ペストをしてもかまわないと思う」、「私は少しくらい約束やルールを破ってもかまわないと思う」、「私は歩きスマホをしてもかまわないと思う」、「私は許可なく友人や他人の写真をSNSに載せてもかまわないと思う」、「私は車やバイクを運転する際に法定速度を超えて走っていてもかまわないと思う」、「私はやられたらやり返してもかまわないと思う」、「私は自分がいいと思えば何をしてもかまわないと思う」、「私は分別が表示されているゴミ箱に分別せず捨ててもかまわないと思う」の9項目で構成されており、一般的にふさわしくないという行動であっても自分の利益のためであれば良いとしていることに関連がみられたため、「自己中心性」と命名した。

第2因子は「私はバスや電車、病院などで通話していてもかまわないと思う」、「私は友人や家族との食事中に携帯電話やゲームをしてもかまわないと思う」、「私はあいさつをさ

れても無視してかまわないと思う」、「私はインターネット上であるなら他人を誹謗中傷してもかまわないと思う」、「私は授業中や公演中に携帯電話を触ったり、鳴らしてしまうことは仕方がないと思う」の5項目で構成されており、他者の存在を考慮せず、なおかつ他者の気分を害する可能性があるものとの関連がみられたため、「対人考慮」と命名した。

第3因子は「私は夜にライトをつけずに自転車で乗っても、かまわないと思う」、「私は並んでいる列に割り込んでもかまわないと思う」、「私は公共の場所であっても話し声や音楽の音量に注意を払う必要はないと思う」、「私は財布を拾ったら必ず交番に届けなければいけないと思う」、「私は目上の人にはきちんと敬語を使うべきだと思う」の5項目で構成されており、状況に応じて適切だと考えられる行動を判断・対応をしていないものとの関連がみられたため、「状況配慮」と命名した。

次に問題行動への許容傾向測定尺度(自己)の3因子の平均、SD、 $\alpha$ 係数を算出した。

表6. 問題行動への許容傾向測定尺度(自己)の因子ごとの平均・SD・ $\alpha$ 係数

	平均値	標準偏差	$\alpha$
自己中心性	2.394	.884	.778
対人考慮	1.916	.716	.716
状況配慮	1.566	.636	.690

表6では、内的整合性を検討するために $\alpha$ 係数を算出したところ、「自己中心性」では $\alpha=0.778$ 、「対人考慮」では $\alpha=0.716$ 、「状況配慮」では $\alpha=0.690$ とすべての因子において十分な結果が得られず信頼性に疑問が残るが、今回はそのまま因子として分析を進めることとした。

## ② 他者

問題行動への許容傾向測定尺度(他者)、23項目について3因子を想定していたため固有値を3と固定し主因子法・Promax回転による因子分析を行った。固有値の分析の%の減衰傾向が10.765、1.507、1.298、1.181…というものであり、固有値の累積の%が3因子で58.998となったため3因子を抽出した。しかし、「他者なら財布を拾ったら必ず交番に届けなければいけないと思う」という項目は因子負荷量が0.35未満で十分な因子負荷量を示さなかったため以後の分析から除外した。



表7 問題行動への許容反応についての因子パターン(他者)

因子名	質問項目	因子		
		I	II	III
自己中心性	他者なら20歳未満でもお酒を飲んだり、タバコを吸ってもかまわないと思う	379	-.109	-.101
	他者なら電車やバスなどで化粧や食事をしていてもかまわないと思う	389	-.250	-.222
	他者なら歩きスマホをしていてもかまわないと思う	345	-.116	-.249
	他者なら車やバイクを運転する際に法定速度を超えて走っていてもかまわないと思う	388	-.063	-.138
	他者ならたとえ不当であっても気づかれなければコピー&ペーストをしてもかまわないと思う	393	-.026	-.149
	他者なら分別が表示されているゴミ箱に分別せず捨ててもかまわないと思う	447	-.222	-.244
	他者なら友人や家族との食事中に携帯電話やゲームをしてもかまわないと思う	418	-.022	-.191
	他者なら許可なく友人や他人の写真をSNSに載せてもかまわないと思う	451	-.147	-.181
	他者なら授業中や公演中に携帯電話を触ったり、鳴らしてしまうことは仕方がないと思う	491	-.114	-.245
状況認識	他者なら並んでいる列に割り込んでもかまわないと思う	-.112	-.268	-.281
	他者なら公共の場所で笑って話したり音楽の音量に注意を払う必要はないと思う	-.029	-.145	-.183
	他者ならバスや電車、病院などで通話していてもかまわないと思う	-.019	-.011	-.211
	他者なら夜にライトをつけずに自転車で乗っても、かまわないと思う	-.117	-.093	-.258
	他者ならタバコやゴミは近くにゴミ箱がなければポイ捨てしても仕方がないと思う	-.011	-.054	-.211
	★他者なら目上の人にはきちんと敬語を使うべきだと思う	-.111	-.118	-.211
対人考慮	他者なら年を取ったらやり直してもかまわないと思う	-.090	-.178	-.223
	他者ならあいつをさけても理解してかまわないと思う	-.222	-.149	-.244
	他者なら少しくちくち物やボールが壊れてもかまわないと思う	-.146	-.144	-.214
	他者ならバスや電車でお年寄りやアゲいもつ方などに必ずしも席を譲る必要はないと思う	-.212	-.222	-.211
	他者なら自分以外の意見は聞かなくてもかまわないと思う	-.222	-.011	-.254
	他者なら結論を多くもたらせても勝手に勝手にかまわないと思う	-.151	-.121	-.212
	他者ならインターネット上であるなら他人を誹謗中傷してもかまわないと思う	-.152	-.282	-.232
	★他者なら財布が落ちたら必ず警察に届けなければいけないと思う	-.222	-.041	-.214
★は転換項目		I	II	III
	I	1.107	-.192	-.291
	II	-.622	1.091	-.252
	III	-.230	-.042	1.000

表7から、第1因子は「他者なら20歳未満でもお酒を飲んだり、タバコを吸ってもかまわないと思う」、「他者なら電車やバスなどで化粧や食事をしていてもかまわないと思う」、「他者なら歩きスマホをしていてもかまわないと思う」、「他者なら車やバイクを運転する際に法定速度を超えて走っていてもかまわないと思う」、「他者ならたとえ不当であっても気づかれなければコピー&ペーストをしてもかまわないと思う」、「他者なら分別が表示されているゴミ箱に分別せず捨ててもかまわないと思う」、「他者なら友人や家族との食事中に携帯電話やゲームをしてもかまわないと思う」、「他者なら許可なく友人や他人の写真をSNSに載せてもかまわないと思う」、「他者なら授業中や公演中に携帯電話を触ったり、鳴らしてしまうことは仕方がないと思う」の9項目から構成されており、一般的にふさわしくないという行動であっても自分の利益のためであれば良いとしていることに関連がみられたため、「自己中心性」と命名した。

第2因子は「他者なら並んでいる列に割り込んでもかまわないと思う」、「他者なら公共の場所であっても話し声や音楽の音量に注意を払う必要はないと思う」、「他者ならバスや電車、病院などで通話していてもかまわないと思う」、「他者なら夜にライトをつけずに自転車で乗っても、かまわないと思う」、「他者ならタバコやゴミは近くにゴミ箱がなければポイ捨てをしても仕方がないと思う」、「他者なら目上の人にはきちんと敬語を使うべき

だと思う」の 6 項目から構成されており、状況に応じて適切だと考えられる行動を判断・対応をしていないものとの関連がみられたため、「状況配慮」と命名した。

第 3 因子は「他者ならやられたらやり返してもかまわないと思う」、「他者ならあいさつを無視してかまわないと思う」、「他者なら少しくらい約束やルールを破ってもかまわないと思う」、「他者ならバスや電車でお年寄りや障がいをもつ方などに必ずしも席を譲る必要はないと思う」、「他者なら自分がいいと思えば何をしてもかまわないと思う」、「他者なら釣銭を多くもらっても言わずに帰ってかまわないと思う」、「他者ならインターネット上であるなら他人を誹謗中傷してもかまわないと思う」の 7 項目から構成されており、他者の存在を考慮せず、なおかつ他者の気分を害する可能性があるものとの関連がみられたため、「対人考慮」と命名した。

次に問題行動への許容傾向測定尺度(自己)の 3 因子の平均、SD、 $\alpha$  係数を算出した。

表8.問題行動への許容傾向測定尺度(他者)の因子ごとの平均・SD・ $\alpha$  係数

	平均値	標準偏差	$\alpha$
自己中心性	2.333	1.098	.903
状況配慮	1.698	.879	.874
対人考慮	2.177	1.002	.869

表 8 では、内的整合性を検討するために  $\alpha$  係数を算出したところ、「自己中心性」では  $\alpha = 0.903$ 、「状況配慮」では  $\alpha = 0.874$ 、「対人考慮」では  $\alpha = 0.869$  とすべての因子で十分な値が得られた。

### (3) 親からの自律性援助尺度の分析

次に親からの自律性援助尺度の平均、SD、 $\alpha$  係数を算出した。

表9.親からの自律性援助尺度の平均・SD・ $\alpha$  係数

	平均値	SD	$\alpha$
親からの自律性援助	4.134	.638	.883

表 9 では、内的整合性を検討するために  $\alpha$  係数を算出したところ、 $\alpha = 0.883$  と十分な値が得られた。

### (4) 問題行動への許容傾向測定尺度と親からの自律性援助測定尺度の相関係数

問題行動への許容傾向測定尺度と親からの自律性援助測定尺度の相関係数を表 10 に示した。

表10.問題行動への許容傾向測定尺度の因子ごとの相関係数

	自己中心性	状況配慮	対人考慮	自律性援助
自己中心性	—	.611*	.688*	.075
状況配慮		—	.533*	-.188
対人考慮			—	-.188
自律性援助				—

\*p<.05,\*\*p<.01

自律性援助と対人考慮では  $r=-0.188$  と非常に弱い負の相関がみられた。しかし、自己中心性、状況配慮ともに自律性援助との相関はみられなかった。

また、自己中心性と状況配慮では  $r=0.611$ 、対人考慮では  $r=0.688$  と高い相関がみられた。状況配慮と対人考慮では  $r=0.533$  とこちらも高い相関がみられた。

(5) 自己・他者の問題行動への許容傾向と親からの自律性援助との関係

問題行動への許容傾向測定尺度を自己が行う問題行動への許容傾向と他者が行う問題行動への許容傾向と分け、それぞれと親からの自律性援助測定尺度の相関係数を表 11 に示した。

表11.問題行動への許容傾向測定尺度の自己・他者の区分と親からの自律性援助測定尺度の相関係数

	自己中心性(自己)	対人考慮(自己)	状況配慮(自己)	自己中心性(他者)	状況配慮(他者)	対人考慮(他者)	自律性援助
自己中心性(自己)	—	.477*	.261*	.649*	.398*	.613*	.104
対人考慮(自己)		—	.251*	.511*	.441*	.537*	.105
状況配慮(自己)			—	.420*	.420*	.537*	.110
自己中心性(他者)				—	.524*	.711*	.100
状況配慮(他者)					—	.761*	-.15*
対人考慮(他者)						—	.11
自律性援助							—

\*p<.05,\*\*p<.01

自律性援助と状況配慮(自己)では  $r=-0.180$  と非常に弱い負の相関がみられた。しかし、自己中心性(自己)、対人考慮(自己)、自己中心性(他者)、状況配慮(他者)、対人考慮(他者)との相関はみられなかった。

また、自己中心性(自己)と対人考慮(自己)では  $r=0.477$ 、状況配慮(自己)では  $r=0.261$ 、自己中心性(他者)では  $r=0.649$ 、状況配慮(他者)では  $r=0.398$ 、対人考慮(他者)では  $r=0.613$  とそれぞれ相関がみられた。対人考慮(自己)と状況配慮(自己)では  $r=0.251$ 、自己中心性(他者)では  $r=0.511$ 、状況配慮(他者)では  $r=0.441$ 、対人考慮(他者)では  $r=0.537$  とそれぞれ相関がみられた。さらに、状況配慮(自己)と自己中心性(他者)では  $r=0.420$ 、状況配慮(他者)では  $r=0.524$ 、対人考慮(他者)では  $r=0.399$  とそれぞれ相関がみられた。自己中心性(他者)と状況配慮(他者)では  $r=0.711$ 、対人考慮(他者)では  $r=0.761$  と相関がみられ、状況配慮(他者)と対人考慮(他者)では  $r=0.708$  とこちらも相関がみられた。

## 考察

### (1) 問題行動への許容傾向へ親からの自律性援助が及ぼす影響

本研究では、女子大学生が評定する問題行動への許容傾向を測定する尺度を作成し、それを用いて親からの自律性援助との関係を検討した。その結果、問題行動と設定した中の「対人配慮」に対する規範意識と自律性援助との間に非常に弱い負の相関がみられた。つまり、子どもと親との関係性を作り上げる方法の一つとしての自律性援助(養育態度)が問題行動、特に対人間での許容について影響を及ぼしていると考えられる。さらに、子ども(女子大学生)が評価する親からの自律性援助と相手との関係を保とうとするため自己の行動を統制し、他者の存在を考慮するようになるということは関連があると考えられる。

また、相関までには至っていないが「状況配慮」においても、サンプル数を増やすことで負の相関がみられる可能性が高いといえ、状況に応じて適切だと考えられる行動を判断・対応をするべきだという考えが、親からの自律性援助と関わりがある、と考えられる。そのため、親からの自律性援助は、自己中心性の項目内を大きく占めている法など自身とは直接関係ない場所から発生する外的規範よりも、自身の心から発生する内的規範への影響が大きいといえる。

辻野・雄山・田麿(2007)は、子どもは自分の心理状況を問題行動として表出し、母親の愛着を求めている、と述べている。また、T・ハーシ(1995)は「両親から疎外されている場合、子どもは道徳的規則を学習することもないし、道徳的規則についての感覚も持ちえず、適切な両親や超自我を発達させることもないだろう」としている。また、子ども自身がメンバーとなるようなコミュニケーション・ネットワークにおいて決定的なものは、親子間のつながりであるとしている。子どもが親とコミュニケーションを持たず、自分の行動について親に話さないならば、自分の行動がどのような反応を引き起こすだろうか気にする必要はない。また、親も子どもの行動をどのように感じるかを子どもに話すことがないなら、配慮すべきことについて気にかけることなく、自由に行動することができる。

以上より、子どもが親からの自律性援助を肯定的に受け止めているほど、親と子の愛着が形成されており、家庭内で不満を出すことができるため社会規範を逸脱する可能性が低い。また、子どもが自分で自分の行動を方向づけ律していく行動の成立・獲得に必要と考えられ、そのことが行動規範や良心、道徳性の発達、しいては問題行動に対する認知において重要になってくるのではないだろうか。

このことから、今回設定した仮説は1、2ともに支持されなかった。しかし、自律性援助と対人考慮との間に非常に弱い相関がみられたことから、全く関連はないということではなく、仮説2が示唆されているのではないかと考えられる。

## (2) 問題行動への許容傾向の自己認知と他者認知との比較

自己が行う問題行動に対する認知と他者が行う問題行動への認知とを分け、「自己中心性」、「状況配慮」、「対人考慮」とそれぞれ親からの自律性援助との関係を検討した。その結果、「状況配慮(自己)」のみ非常に弱い負の相関がみられた。「状況配慮(他者)」と比べるとこちらでは相関がみられていないことから自律性援助は、より自己の状況配慮、つまり状況に応じて適切だと考えられる行動を判断・対応する際に影響を与えていることがわかる。しかし、「状況配慮(他者)」もサンプル数を増やすことで自律性援助との相関がみられる可能性を示唆している。そのため、自己の認知がなぜ他者への認知に比べより問題行動への許容傾向に関連がみられたのかを考えていく必要がある。

松原(2014)は、女子学生の方が男子学生より規範意識が高いことについて注目している。その理由として女子学生は他人と行動をともにしたりする中で、安心感や自分の存在価値を見いだす傾向が高いことを推測させ、そのような他者との関係性を維持していくためには、そこに存在する規範に敏感であること(そしてそれを遵守すること)が重要となる、としている。このことから、女子学生は自身が所属する特定のグループの中での周囲の目やまわりにいる人との関わりを強く気にしているが、自身の状況配慮における規範意識は持っている。しかし、集団から排除されないために所属するグループ間に存在する規範に従い、その集団のメンバーを配慮しているがために、問題行動への許容傾向が自己への認知に比べ、他者への認知を許容しているのではないかと考えられる。

## (3) 今後の課題

松原(2014)は大学生の規範意識について、男女で比較検討した結果、女子学生の方が規範意識は高かったと報告している。これは、大学内で友人と一緒に行動する機会が女子大学生には多く、女性のほうが周囲の目や、周りにいる人との関わりを強く気にしているといわれることがある。そのため、女性は特定のグループに所属したり、他人と行動をともにしたりするなかで、安心感や自分の存在価値を見いだす傾向が高いことを推測させるが、そのような他者との関係性を維持していくためには、そこに存在する規範に敏感であり、遵守することが重要となるだろうと指摘している。この結果から、男女での問題行動の許容傾向を比較検討することも自律性援助と問題行動への許容傾向の関係において大切な要素となるのではないかと考えられる。

また上記においてさんざん述べてきたことではあるが、今回は有効回答数が95とサンプル数が少ないと考えられるとともに、問題行動という回答が難しい話題でもあるため、より多くのサンプルを集める必要があると考えられる。そのため有意な相関がみられる可能性があることからサンプル数を増やすことが課題として挙げられる。また、欠損値が多かったことから、質問紙が両面印刷で、回答のしにくさがあったのではないかと考えられる。

さらに、今回作成した質問紙ではフロア効果が23項目中8項目と少なくはない数でみら

れている。加えて因子分析の結果、初めに想定していた因子構造とは異なる結果になっていたことから、項目作成段階においてさらに精査し、再検討が必要だと考えられる。

以上を中心に今後の課題として、検討していこうと考える。

## 引用文献

Grolnick, W. S., Ryan, R. M. & Deci, E. L. 1991 Inner resources for school achievement: Motivational mediators of children's perceptions of their parents. *Journal of Educational Psychology*, 83, 508-517.

柏木恵子 1983 『子どもの「自己」の発達』 東京大学出版会

松原英世 2014 大学生の規範意識について *愛媛法学界雑誌* 第40巻第3・4号併合

森下正康 2002 幼児期の自己統制機能の発達(4) -園と家庭における縦断的研究- 和歌山大学教育学部紀要 教育学科編, 52, 1-12

中台 佐喜子, 金山 元春, 前田 健一 2004 母親の養育態度が幼児の問題行動に及ぼす影響--養育態度→家庭における問題行動→園における問題行動というプロセスの検討 広島大学心理学研究 広島大学大学院教育学研究科心理学講座, 4, 151-157

中村真・松井洋・石井隆之 2007 「親子関係と青少年の非行的態度Ⅱ：親子双方の視点から」 川無学園女子大学研究紀要 川村学園女子大学 18巻, 1号, 123-140

中村慎佑・西迫成一郎・森上幸夫・桑原尚史 2008 社会的規範からの逸脱行動の様相と類型-社会的規範の普遍性と可変性に関する研究(1)- 関西大学総合情報学部紀要「情報研究」, 29, 55-68

酒井 厚, 菅原 ますみ, 眞榮城 和美, 菅原 健介, 北村 俊則 2002 中学生の親および親友との信頼関係と学校適応 教育心理学研究 日本教育心理学会, 50, 1 12-22

桜井茂男 2003 「子どもの動機づけスタイルと親からの自律性援助との関係」 筑波大学心理学系

T. ハーシ 1995 『非行の原因 家庭・学校・社会のつながりを求めて』 (森田洋司・清水新二監訳) 文化書房博文社

辻野順子・雄山真弓・田麿みつ子 2007 子どもの問題行動と母親の愛着との関連性、並びに子どもの問題行動に対する母親評価と保育士評価の相違性について 関西女子短期大学紀要 17号

吉田富二雄・宮本聡介 2011 『心理測定尺度集V-個人から社会へ(自己・対人関係・価値観)-』 堀洋道(監) サイエンス社